2024年度 第30回FD・SDフォーラム
地域と大学 ――地域との共生における大学教職員の実践――

「地域と大学がつながるための「工夫」
―京都文教大学での取組を踏まえて―

京都文教大学 学長 森正美

概要

現在、地域・社会連携活動を実践していない大学はないだろう。しかし、その活動の浸透や新たな展開を考える上で、様々な課題を感じている大学教職員も少なくないのではないのでしょうか。

本報告では、報告者自身の地域連携活動の経験、大学全体としての制度化、COC、COC+事業などの外部資金の活用などの経験を踏まえ、大学として、大学教職員としてできることについて具体的な事例を紹介し、活動のヒントを提供することができれば、と願っています。

地域のニーズや社会の動きを捉えながら、どのような活動を展開していけばいいのか、その際に学内の教職員をどう巻き込んでいけばいいのか、そして、何よりもこのような活動を通じて学生の成長をどう促し、地域の様々なステークホルダーと協働しながら、よりよい地域・社会を作っていけるのか、一緒に考える機会になれば幸いです。

内容（予定）

1. 京都文教大学の地域連携
2. 地域連携の制度設計
3. 地域連携を担当する教職員の役割
4. どうやって、教職員の輪を広げるか
5. どうやって、地域の方々とつながるか
6. 新たな地域連携の展開をどう考えていくか

参考文献

京都文教大学地域協働研究シリーズ ミネルヴァ書房

1. 橋本祥夫（編著）2020 『京都・宇治発 地域協働の総合的な学習：「宇治学」副読本による教育実践』
2. 松田美枝（編著）2020 『多様な私たちがともに暮らす地域：障がい者・高齢者・子ども・大学』
3. 森正美（編著）2021 『実践！ 防災と協働のまちづくり：住民・企業・行政・大学で地域をつなぐ』
4. 片山明久（編著）2021 『旅行者と地域が創造する「ものがたり観光」：宇治・伏見観光のいまとこれから』

清水展・小國和子 編著 2021 『職場・学校で活かす現場グラフィー：ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』明石書店